

「法隆寺地域の仏教建造物」世界文化遺産登録25周年記念セミナー

「聖徳太子のおもかげに会う斑鳩」開催記録

3. 映画監督が見た世界遺産地区「斑鳩」の風景



- 開催日時・場所
 - ・平成30年11月17日（土曜日）
午後1時30分～午後3時（開場：午後1時）
 - ・日比谷図書文化館 4階 Studio+
（東京都千代田区日比谷公園1-4）

- 講師



浄念寺住職・映画監督
横田 丈実 師



斑鳩町教育委員会事務局生涯学習課
参事・考古学技師 平田 政彦 氏

- 司会進行
斑鳩町観光キャンペーン大使 藤江 祐太
- 横田住職と平田技師による対談のようす



平成30年度文化庁文化芸術振興費補助金
（文化遺産総合活用推進事業）

13 : 00		<p style="text-align: center;">～開場～</p>
13 : 20	<p>斑鳩町観光 キャンペーン大使 藤江祐太 (以下、藤江)</p>	<p>本日は、「法隆寺地域の仏教建造物」世界文化遺産登録25周年記念セミナー「聖徳太子のおもかげに会う斑鳩」にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>本日のプログラムは、予定どおりこの後、午後1時30分に開演いたします。終了予定時刻は午後3時となっております。</p> <p>開演までのお時間をお借りしまして、本日、参加記念品として、「わたしだけの斑鳩時間」について、ご紹介させていただきます。(資料から出して、聴講者に見せる)</p> <p>「わたしだけの斑鳩時間」は、斑鳩町の郷土史家・蔭山精一さんの文章とデザイナーの坪岡徹さんのイラストによる、知る人ぞ知る斑鳩の歴史秘話を2話ずつペーパーにまとめたミニガイドで、全30編あります。</p> <p>本日は、そのなかから、「斑鳩物語と大黒屋旅館」「未完の大寺・中宮寺跡」をプレゼントさせていただきました。</p> <p>また、今年5月にオープンいたしました国指定史跡中宮寺跡のパンフレットも合わせてお配りしております。</p> <p>開会までのお時間に、どうぞご覧ください。</p>
13 : 30	藤江	<p>皆様こんにちは。</p> <p>只今から、「法隆寺地域の仏教建造物」世界文化遺産登録25周年記念セミナー「聖徳太子のおもかげに会う斑鳩」を始めさせていただきます。</p> <p>本日、司会進行を務めさせていただきます、斑鳩町観光キャンペーン大使 藤江祐太と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>世界文化遺産・法隆寺のあるまち 斑鳩町は、奈良県の北西部に位置する、古来からの交通の要所です。飛鳥時代、聖徳太子が寺を建てるのにふさわしい土地を探しておられたとき、龍田明神が白髪の老人の姿となって、「ここより東に斑鳩の里がある。そこに寺を建てなさい」というお告げがあり、聖徳太子は斑鳩の里に法隆寺を建立された</p>

13 : 32	平田	<p>と伝えられています。</p> <p>また、聖徳太子は、斑鳩の里に「斑鳩宮」「中宮」「岡本宮」「葦垣宮（あしがきのみや）」の4つの宮を造営し、一族で暮らしておられました。今なお、斑鳩には、聖徳太子ゆかりの寺社や史跡と、つみかさなる歴史が多く残されています。</p> <p>そして、西暦607年に法隆寺が建立されてから1400年、平成5年12月には、「法隆寺地域の仏教建造物」が、日本ではじめて、姫路城とともに、世界文化遺産に登録されました。</p> <p>このセミナーは、世界文化遺産登録25周年を記念し、文化庁の支援を受けて、開催するものです。</p> <p>第3回目となります今回のテーマは、「映画監督が見た世界遺産地区『斑鳩』の風景」でございます。</p> <p>本日の講師は、浄念寺住職で映画監督の 横田 丈実（よこた たけみ）様と、斑鳩町教育委員会事務局生涯学習課 参事で 考古学技師の 平田 政彦（ひらた まさひこ）技師です。</p> <p>今回は横田住職と平田技師による対談をお楽しみいただきたいと思います。それでは、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>みなさん、あらためましてこんにちは。</p> <p>本日は、今までの回とは違った趣向の企画となっております。第1回目は法輪寺の井上住職様、第2回目は法隆寺管長の大野玄妙様でしたが、今回は斑鳩町にある浄念寺のご住職様でいらっしゃるのですが、もう一つのお姿として映画監督でもいらっしゃいます横田様にお越しいただきました。以前から映画監督としてご活動されていることは、私も存じ上げておりましたが、実際は「あかりの里」という作品からしか存じ上げておりませんでした。また、今までは、歴史のお話しを中心にこのセミナーでお話をしてきました。そういったこともあり、今回は映画監督という視点で、斑鳩をどのように捉えていただいているかということや、どのように感じていただいているかといったことをお話しいただきまして、みなさんに、斑鳩の歴史だけではない違った魅力を知っていただく機会となればと思っています。</p>
---------	----	---

	横田住職	<p>それでは、まずご住職様にお話しいただきまして、それから写真を見ながら対談としたいと思います。</p> <p>みなさん、こんにちは。</p> <p>私は、奈良県斑鳩町にある浄念寺というお寺の住職をしております、横田丈実と申します。僧名は横田丈実（よこた じょうじつ）と申します。</p> <p>私のお寺は先ほど申しましたように斑鳩にあります。最初にセミナーをされた法輪寺さんや法隆寺さんは斑鳩を代表するお寺ですが、私どもはそうではなく、観光客はほとんど来られません。お寺の位置としては、法隆寺から法輪寺へ行く途中にあるのですが、私どもの前は素通りされます。どちらかというと観光寺社と違い、檀家さんに支えられている庶民的なお寺でございます。また、私どもの地域では、例えば1月3日にどなたかがお亡くなりになられますと、その亡くなられた日だけでなく、毎月3日にその方の家にお参りに行きます。ですから、毎日家にうかがいお参りするというのが、私どもの法務でございます。今日の次第には融通念佛宗と書いておりますが、これはすごくエリアの小さい宗派でございます。少し前に開宗900年という節目を迎えました。浄土宗や浄土真宗より古い宗派ですが、なかなか広まらず、奈良と大阪の一部分に存在する宗派でございます。私どものお寺は、そういった宗派に所属しております。</p> <p>そして、先ほどご紹介いただきましたように、お坊さんをしながら映画を撮っております。京都の龍谷大学に通っております。そこで仏教の勉強をしているときに、「映画研究部」という映画を作るクラブに入っており、それから30年くらい、地道にコツコツと映画を作っており、15本の映画を作りました。一番新しい映画が、パンフレットをお配りしております、『遺影、夏空に近く』という作品で、去年完成した映画です。これは、遺影写真のドキュメンタリーで、檀家さんなどにインタビューをしながら、亡き人と遺された人との物語を描いている作品となっています。いつでもどこでも上映させていただきますので、よろしくお願ひします。</p>
--	------	--

		<p>さて、今日は、私が2010年と2011年の2年にわたって、斑鳩の里を映像で記録しておりました、今回これを10分の映像に編集いたしました、こちらで上映させてもらおうと思っております。この映像は、さまざまな素材の中から、法隆寺の五重塔、法輪寺の三重塔、法起寺の三重塔の3つの塔を中心に取り上げておりました、これらの春夏秋冬を描いております。まず、夏から始まるのですが、夏の映像には法輪寺や法起寺といった字幕を入れておりますが、秋以降の映像からは字幕を外しており、どの塔なのか混乱されるかもしれませんが、私たちが塔に囲まれて暮らしているという雰囲気を感じてほしいという思いから、わざと字幕を外しております。</p>
平田		<p>今、横田住職様がおっしゃられた映像は対談が終わってから、最後の方で見ていただく予定をしております。まずは、映像から切り取っていただいたシーンを10枚の写真にさせていただいています。これらの写真について、対談の中で解説をさせていただきます。その後、ご住職様の視点で切り取った、斑鳩の四季折々の姿の映像を見ていただきたいと思います。</p>
		<p>まず、1枚目の写真です。ご住職様、ここは元々の浄念寺があった近くですね。</p>
横田住職		<p>そうです。</p>
平田		<p>元の浄念寺がこの近くにあって、ここより北側の「天満山」という山に斑鳩神社が鎮座しておられて、その東側に現在の浄念寺があります。この写真は、「東里（ひがしさと）」という集落であり、法隆寺の方向を見ているものです。方角でいうと東から西を見えています。この写真の場所から左側（南側）に行くと、夢殿のある東院の入口にたどり着きます。浄念寺がある場所は、逆に右側（北側）です。また、このまま西側に進むと法隆寺にたどり付くわけですが、写真の場所の近くで、入江泰吉（いりえ たいきち）という有名な写真家の先生が、写真を撮られたりしています。こうしたアングルは、知る人ぞ知る斑</p>

	横田住職	<p>鳩の一つのシーンだと思います。</p> <p>ご住職様、ここで何かお話しされることはありますか。</p> <p>我々、斑鳩に住んでいる者は、あまり法隆寺の中に入りません。どちらかと言えば、観光客の方が法隆寺を参拝されます。ですから、地元の者にとっては、写真にあるような、境内の外から法隆寺を見ているような景色が、斑鳩の里の景色だという感じがします。一生に何回かしか五重塔の近くまで行かない、という方もたくさんいらっしゃいます。また、どちらかという仏教が染み渡っているというか、気づかないうちに塔と接しているというのが、我々の暮らしです。ある私の近所に嫁いでこられた方が、「法隆寺の鐘が『ゴーン』となってるなあ」とおっしゃったのですが、我々には、鐘の音が肌に染みついでいて、鐘が鳴っていること自体に気が付かないくらい、仏教的な雰囲気にとっぷり浸かっているような暮らしをしております。法隆寺の五重塔が日常的に見えるということが、斑鳩に住んでいる者にとっては、聖徳太子の心をいつも感じながら暮らしている、ということ象徴しているように思います。</p>
	平田	<p>先ほどご紹介した「東里」というエリアは、みなさんあまりご存知ないかもしれませんが、実は、私が専門としている考古学でも重要な土地です。何が重要かといいますと、「斑鳩宮（いかるがのみや）」という聖徳太子が斑鳩に住居を移すために、601年に宮を造営し始め、605年に移り住んだという記事が、『日本書紀』に出てきますが、その頃の日本の政治を進めていったところなのです。このお話は、当セミナーの第1回目の、法輪寺のご住職様がいらっしゃった時にしました。みなさんがご存知の、「十七条憲法」や「冠位十二階」が成立したのが、ちょうど斑鳩宮の造営途中の時期にあたりますが、斑鳩に完全に移り住む前の事業として、こうしたものが成立していきました。ですから、607年に聖徳太子が法隆寺が建立した、となっていますが、間違いなくその頃には、聖徳太子は斑鳩宮に住んでおられたということになります。その宮の跡がこの集落の中にあります。</p>

		<p>昔、浄念寺があった場所を発掘してみても、斑鳩宮に関連する遺物が発掘されています。また、この集落の中心地を発掘してみると、やはり飛鳥時代の土器などが出土します。ですから、私は、調査した場所のもう少し南側を発掘できれば、おそらく聖徳太子の宮殿が出てくるのではないかな、と残念に思っています。斑鳩宮跡からどんな柱穴などの遺構が出てきたかという、考古学者の中でも意外と思えばならないのが実情です。それもそのはず、聖徳太子は、斑鳩宮跡と言われるところに移り住んでおられたのは間違いないのですが、寝泊まりしたり、政治を行っていた宮殿の中心的な建物跡がまだ見つからないという状況なのです。</p>
平田		<p>2枚目の写真ですが、先ほどの「東里」の集落を抜けて、法輪寺へ向かう道です。この写真には写っていませんが、写真の右側に「片野池（かたのいけ）」という大きな池があり、これを迂回しながら写真左側に行くと、法輪寺というお寺が見えてまいります。そして、真正面に見える丘が、「岡の原」というところです。</p>
横田住職		<p>ご住職様、この写真について、お話をお願いします。</p> <p>私は、このカーブの道がすごく好きで、いつも僧衣を着て原付に乗って走っています。この辺りは風致地区で、建築規制が厳しいところです。先ほどの「東里」集落は、建物の密度が高いところで、法隆寺の土塀や、その向こうに見える五重塔などが魅力的です。その集落を抜けますと、風景が一変して、視界が開け、田園地帯に入ってまいります。この写真は夏のものですが、稲の季節になると、このカーブと稲が何とも言えない風景で、季節が寄せてくるような感じがいたします。このカーブを進むと、真正面に法輪寺が見えてくるといった場所でございます。</p>
平田		<p>亀井勝一郎（かめい かついちろう）さんは、『大和古寺風物誌』で法輪寺の描写前に、まさしく住職様がおっしゃっていただいたような、「東里を抜けて法輪寺に向かうまでの開けた視界が、田舎じみた</p>

景色で好きだ。」ということをおっしゃっています。そして、これもご住職様のお話にあったように、この辺りは新たに建物を建てるのが難しい場所なので、田んぼの風景が広がっています。

そして、「岡の原」の歴史についてもお話しさせていただきたいと思います。この「岡の原」の上には、1基だけ古墳があります。この古墳が誰の古墳かという点、宮内庁が天皇陵ではありませんが「陵墓参考地」としていまして、聖徳太子の息子の山背大兄王（やましろおおえのおう）のものだと言われています。643年に、蘇我入鹿によって斑鳩が襲撃され、山背大兄王が自殺を遂げて、葬られるということになり、『延喜式』には「北岡墓」という記述があります。そうしたことから考えると、「岡の原」はまさしく“丘”ですが、このセールスポイントとしてましては、この丘の頂上からは、建立に着手した法輪寺と法起寺が両方が見えます。そうした立地を考えると、山背大兄王のお墓ではないかとも考えられるわけです。成城大学名誉教授の上原和（うえはら かず）先生も、立地条件から考えると、山背大兄王のお墓ではないかとお話しされていたのですが、考古学的にはそれは認められません。実際に、「岡の原」には、古墳のものかどうかは定かではありませんが、埴輪が落ちています。しかしながら、山背大兄王の頃のお墓には、埴輪はもう使われておりませんので、こうしたことから考えると、山背大兄王の時代よりも古い時代の古墳ではないかとも考えられるわけです。しかし宮内庁が管理されていますので中には入られず、誰のお墓なのかはよくわかりません。考古学的なお話をすると、この「岡の原」は真ん中にくぼみがあります。私が斑鳩町に勤め始めたとき、「遺跡地図」を作るために、町内を歩きまわっていたときに、地元の古老に、「この古墳から、大きな石を南側へ引きずりおろして、石橋を作った」という話を聞きました。それを聞いて、南側に流れている秋葉川まで行くと、大きな平らな石が川に架け渡してありました。これをよく観察してみると、古墳の天井石ではあるのですが、どうも7世紀頃の古墳のように見えないのです。ですから、私は山背大兄王のお墓ではないと思っています。ただ、山背大兄王のお墓であると信じておられる方も多いです。なお、外観とし

		<p>では前方後円墳のように見えますが、直径30メートルほどの小さな円墳です。</p> <p>写真左側に石碑が見えていますが、これを左の方に行きますと、「中宮寺墓地」というのがありまして、中宮寺の歴代の尼門跡様のお墓があります。これも宮内庁が管理されています。これはなぜか、ご存知でしょうか。中宮寺は、「尼門跡」という言い方があるように、皇女様が中宮寺に来られています。ですから、いわゆる皇族が葬られているので、宮内庁の管理となっているわけです。斑鳩に何回も来られて、法隆寺も法起寺も法輪寺も中宮寺も行って見飽きたという方がいらっしやいましたら、江戸時代からの歴代の皇女様のお墓といった、「斑鳩の隠れた歴史」のような場所に行かれてみるのもよいかと思います。また、私が中宮寺様から聞いた話では、皇女様が中宮寺に来られたときに寂しかったようで、このことがきっかけとなったのか、中宮寺には「表御殿」という、国の登録有形文化財の御殿があります。有名な「弥勒菩薩像」を見る前に見ていただきたらと思いますが、「表御殿」を見ると、「京都御所」に似た建物であることに気づきます。「御所造（ごしょづくり）」という様式ですが、これに似せて造られています。皇女様が住まわれるところであり、京都での生活と同じような暮らしができるように、そして寂しくならないようにということで造られたということです。</p> <p>平田 3枚目の写真に移ります。こちらが、法輪寺の正面です。ご住職様、こちらの写真についてのお話をお願いします。</p> <p>横田住職 こちらは、2枚目の写真にあった、カーブの道を道なりに行ったところに、正面に見えてくる法輪寺の門です。この辺りは、私はいつも原付で通っていますが、歩いて通ると味わい深いと思います。法輪寺の門がだんだん前から近づいてくると、心が静まってくるような感じがします。ですから、正面に見えてくる法輪寺の門を味わいながら、歩いていただきたいなと思います。</p>
--	--	---

平田		<p>2枚目の写真の、片野池のカーブの道を行って、まっすぐ北に向かうと法輪寺の門が見えてきます。その少し南側に、昔は松の木が生えていたのですが、そこが法輪寺の南門の推定地であると言われていいます。亀井勝一郎さんの本にもそのようなことが書かれています。斑鳩を散策される際には、ぜひ歩いていただいて、法輪寺の門が前から近づいてくる趣を味わっていただければと思います。</p>
平田		<p>4枚目の写真は、法起寺です。法起寺の周りにはコスモス畑があります。この写真を見ても秋のものであることがわかります。</p> <p>ご住職様、何かお話しいただけますか。</p>
横田住職		<p>法起寺の周りは、秋になるとこのように、ものすごいたくさんのコスモスが咲く地帯です。斑鳩町内で、コスモスが咲いている場所が最近増えてきていて、歩いていると遠くにコスモスが見えたりします。その中でも法起寺の周りは、塔を望みながらコスモスを見ることができるので、ほかの場所とは違った趣を感じることができると思います。普通のコスモス畑ではなく、塔が見えることによって全く趣が変わってきます。私たちの日常の暮らしでも、「布施」や「施す気持ち」といったような昔からの教えがありますが、そこに「仏教的」というのが付くと、一気に「施し」の意味合いも変わってくるように、塔が見えるコスモス畑の風景のように、仏教的な味わいが入ることによって、また違った意味合いや趣が感じられると思いますので、来られたことのある方もいらっしゃると思いますが、ぜひ一度見ていただければと思います。</p>
平田		<p>法起寺周辺のコスモス畑は、斑鳩町でコスモスを植えるようになった地域の先進的なエリアです。もう少しで30年を迎える歴史を持っています。法起寺の三重塔のシルエットが格好いいので、写真家を含めて、たくさんの方がコスモスと法起寺の風景を撮りに来られます。また、今回、史跡中宮寺跡のパンフレットをお配りしておりますが、史跡中宮寺跡は、今年の3月に整備が完了し、敷地の一部をコスモス</p>

畑にしています。そのコスモスを見るため、たくさんの方が来られています。また、藤ノ木古墳という有名な古墳が斑鳩町にありますが、その北側にもコスモス畑があり、コスモスを植えるようになって約20年になります。こちらも、藤ノ木古墳をバックに、コスモス畑と藤ノ木古墳の風景を撮りに来られる方がたくさんいらっしゃって、新聞にも取り上げられたこともあります。ご住職様がおっしゃったように、秋の10月の斑鳩町は、コスモス畑が点在していますので、来年にはぜひコスモスを見に来ていただければと思います。

そして法起寺についてですが、この辺りは「岡本」という地域です。先ほど司会から紹介があったように、斑鳩には、聖徳太子が造営した宮が4つあります。「斑鳩宮（いかるがのみや）」「中宮（なかのみや）」「葦垣宮（あしがきのみや）」「岡本宮（おかもとのみや）」です。その中で、この「岡本」という地区は、「岡本宮」があったと推定されているところです。ここを発掘調査しますと、いろいろなものが出土します。お寺関係の遺構が見つかるのは法起寺があるからだと思うのですが、「岡本宮」の宮殿跡と思われる遺構は、お寺の遺構のさらに下からみつかっています。こうしたことから、宮殿の敷地を利用して法起寺を建てたのではないかということがわかってきました。第1回目のセミナーでお話しいたしましたが、會津八一先生の「法輪寺・法起寺の建立年代の研究」で、「山本宮」は「岡本宮」であるということがほぼ間違いないであろう、ということがわかっています。また、この辺りからは、飛鳥時代の古い時代の瓦も出土しますし、同じ時代の石の溝の遺構も出土します。このエリアの南側からは、地元の方から「岡本宮から葦垣宮まで続く道」と言われている道の遺構が、25年程前の橿原考古学研究所との共同調査で見つかりました。人の足跡や、牛の蹄の跡まで見つかりました。また、7～8メートルの一本のくり貫きの井戸が出土したりと、ものすごい歴史を秘めた地域だと思います。

平田

ご住職様、5枚目の写真は秋祭りのものですね。

横田住職	<p>はい、これは毎年10月に行われる、秋祭りの光景を狙って撮ったものです。</p> <p>この写真に写っている場所は、法隆寺が近くにあるので仏教的な雰囲気のあるところなのですが、その中で神様のお神輿が通ると、これがまた、味わい深い光景だなと思います。「ドーン、ドーン、ドン、ドン」と太鼓の音が響きながら、お神輿が路地を巡っていくのが、秋祭りの光景です。私どものお寺の宗派である「融通念佛宗」では、秋祭りの時期に「御回在（ごかいざい）」という行事があり、私どもの本尊は仏像ではなく、掛け軸の如来なのですが、その掛け軸を箱にしまい、一軒一軒家を回っていくという行事です。この行事が、秋祭りとちょうど重なるときが何年かに1回あり、「御回在（ごかいざい）」で用いる「カンカンカンカン」という激しい鐘の音と、秋祭りの「ドーン、ドーン、ドン、ドン、ドン」という音が響きあいます。神様と仏様が混然一体となって作られているようなこの辺りの雰囲気、ほかの地域とは違うのかなと思います。</p>
平田	<p>そうですね。</p> <p>私も「御回在」の鐘の音は聞いたことがあります。ご住職様がおっしゃられた掛け軸の如来ですが、すごく重いもので、「カンカンカンカン」という音が聞こえると、「あ、如来さんが回っておられるんだな」と思うわけです。</p> <p>また、私の職場は、法隆寺の西側の「西里（にしさと）」というエリアにあり、「西里」にも秋祭りのお神輿が来ますので、「ドーン、ドーン、ドン、ドン、ドン」という音が聞こえます。</p> <p>現在やっている秋祭りの祭礼ですが、民俗学的な調査を約30年前に民俗学の先生と私とで行いました。「法隆寺地区の秋祭り」という名前がついていて、「産土神（うぶすながみ）」に対して五穀豊穡の感謝を示すために行う行事ですが、もともとの祭神は、法隆寺の境内にあったようです。ですが、みなさんご存知かもしれませんが、明治時代の「神仏分離令」によって、神様はお寺ではないところにお祀りしないといけなかったわけです。そこで、浄念寺の西側に斑鳩神社と</p>

いう神社があり、秋祭りの祭神は、法隆寺から斑鳩神社に祀られるようになりました。お祭りに興味のある方は、ぜひお越しいただきたいと思いますが、今でも夜間に、「斑鳩」の産土神（うぶすながみ）の御霊を「斑鳩神社」の宮司が箱の中に移されて、お神輿に乗せて法隆寺へ向かいます。法隆寺に「食堂（じきどう）」というところがあって、その南側にある「御旅所（おたびしょ）」に御霊が移られます。そして周辺の五つの大字（だいじ）と呼ばれているエリアである、「西里」、「東里」、「三町（さんまち）」、「並松（なんまつ）」、「五丁（ごちょう）」がそれぞれ持っている「ふとん太鼓」を、国宝の法隆寺の東大門の周りに集めます。そして、移動して「ふとん太鼓」が南大門を通過して境内に向かっていくわけです。これがまた、南大門に「ふとん太鼓」がギリギリで抜けていくので、文化財に携わる者としてはヒヤヒヤものです。しかし、毎回事故もなく、ぶつけることもなくすり抜けておられます。後ほどの映像では、そのようすも写っていると思います。勇壮なのは、2つの「ふとん太鼓」がすれ違うときに「かきあい」と言って、「ふとん太鼓」を高く挙げるときです。写真にも写っていますが、「ふとん太鼓」真ん中に太鼓があって、その周りに子どもが乗っています。子どもの成長を願い、乗っておられるわけですが、「かきあい」のときになると、「ふとん太鼓」を担いでいる大人が激しく「かきあい」をしますので、こどもが落ちたこともありました。ですから、今では子どもをふとん太鼓に縛って落ちないようにされています。そして、夕暮れになり最後の「かきあい」があるのですが、そのときには提灯に灯が点り、勇壮さに風情が加わって何とも言えない風景です。「ふとん太鼓」はかなり重いので、最近では人の集まりやすい10月の第2週目の土日に行われていますが、昔は決まった日に行われていました。このように、斑鳩にも「神賑（かみにぎ）わい」があります。

「ふとん太鼓」自体は、有名な大阪の岸和田の「だんじり」がルーツです。また、民俗調査では、岸和田がある泉州辺りで造られた「ふとん太鼓」が、斑鳩でも使われているということがわかっています。

平田		<p>6枚目の写真です。きれいな風景ですが、ご住職様、これについてお話をお願いします。</p>
横田住職		<p>これは見てのとおり雪景色です。斑鳩町はあまり雪が降る場所ではございません。ですから、写真のように、ここまで雪が降るのは珍しいです。夜に降り、朝起きて「銀世界だ!」ということはあるのですが、写真の日は朝から降りだし、1日中雪が降っていたので、撮影には絶好の日だと思って、走り回ったのを覚えております。これは2011年2月に撮影したものです。その1か月後に東日本大震災が起きたんだと、編集しながらしみじみ思っておりました。雪ですので、「ジャバジャバジャバ」という音がしていたのですが、編集の段階で音を消してみようかなと思いきや音を消してみると、深々と雪が降るようすが表現されて、音が聞こえてくるような感じになったので、雪の場面については音を消して上映させていただこうと思っております。改めて震災のことを思い出すと、斑鳩町に雪が積もっていく風景も、鎮魂的な意味も感じるようなカットになったと思います。斑鳩には明るい歴史だけでなく、暗く悲しい歴史もたくさんございます。その鎮魂も含めて、この雪の場面を作らせていただきました。</p>
平田		<p>ご住職様がおっしゃられたように、みなさまは、奈良というと何となく寒いイメージを持っておられるかもしれませんが、ここ数十年は、雪は降っても積もらないというような気候になってまいりました。私も斑鳩町に奉職してから約30年になりますが、雪が積もったのは数えるくらいです。この写真の日は、ご住職様は町内を一生懸命回って撮影しておられたようですが、私も藤ノ木古墳の雪景色などを撮影しに町内を駆け回っていました。法隆寺は、いい場所から撮影しようと場所の取り合いで、私が法隆寺に着いたころには、既にたくさんの方がいました。私も雪景色は印象深く感じています。朝、雪が止んだときの藤ノ木古墳が本当に静かで、音を藤ノ木古墳が吸収しているかのような、そんな雰囲気でした。そんな静かな中、シャッター音だけが鳴り響いていました。</p>

		<p>この写真はどこのお寺か、みなさんおわかりになりますでしょうか。法輪寺です。法輪寺を北東側から撮影したものです。法輪寺の北側に「いかるが溜池」という溜池がありまして、5つの池を1つの池にした溜池です。斑鳩は、水を確保するのが難しかったため、治水事業としてできた溜池です。正面から見る法輪寺だけでなく、北側にある「いかるが溜池」あたりから見える法輪寺の風景も良いものです。昭和をはじめとする近代の歴史に興味がある方は、ぜひ調べていただきたいと思いますが、テレビにも取り上げられてもおかしくないくらいの計画が斑鳩にもありました。というのは、法輪寺のある「三井(みい)」という地域に「いかるが溜池」があり、この「いかるが溜池」から法輪寺の西の方の藤ノ木古墳の北側にある「桜池(さくらいけ)」まで、水を送水しようという計画が持ち上がったことがあります。私も、その話は少しだけ聞いたことがありましたが、法隆寺の裏山を発掘調査したときに、近くにコンクリートでできた近代の遺構がありました。「これは一体、何のコンクリート土台だろうか」と思って調べてみると、水道管を渡すための土台でして、マンホールからは地下で水道管に繋がっていたりしました。さらに調べていくと、「西里」の集落まで管が来たときに、勾配の計算を間違っって工事が進められていたということがわかった、というようなこともわかりました。このことが原因で、この計画は頓挫したようです。そのような歴史もあったようです。</p>
平田		<p>7枚目の写真です。</p> <p>ご住職様、この写真は、先ほど申しました「天満池」から法隆寺の東大門に抜ける道ですよね。「ふとん太鼓」のお話もさせていただきました道です。まさしく、浄念寺から法隆寺に向かう道です。</p> <p>雪解けのときのものでしょうか。</p>
	横田住職	<p>そうです。雪が降った次の日に撮影に行きました。屋根瓦から雪が「ドサドサ」と落ちるのを狙って、ずっと待っておりました。この音すごく良いなと思います。後ほどの映像では、沈黙の後に、春間近の</p>

	平田	<p>光景として、雪が落ちる音を入れております。この道はかなり細く、車がぎりぎり通ることができる道なので危ない場所ではあります。私も小学校のときに学校へ登校する際、向かいから単車がやってきて、すれ違うときに、ランドセルに単車のハンドルが引っ掛かり、単車に乗っていた人が横倒しに横の溝にはまった光景は、今でも昨日のこのように、スローモーションのように覚えています。それくらい危険な道ではあります。すが、すごく良い道だと思うので、観光に来られた方には見てほしいと思います。地元の住民も、車1台をぎりぎり通しながらも、頑張ってみなさまに見てもらおうのを楽しみにして、守っている道の1つでございます。</p> <p>軒先に雪が少し残ってますが、雪が解けてくると、屋根には勾配があるので、瓦から“ストン”と雪が落ちる風景が見られますが、私はどちらかというと“ピチャ、ピチャ”と雪が解けたしずくが落ちる音が好きです。余談ですが、よくこの付近に運送のトラックがぶつかるということもあります。この塀は国の重要文化財に指定されています。ですから、ぶつかったりして破損させると、そのことが新聞に載ったりもします。</p> <p>この道は、ご住職様もお話しされましたように、日常の生活道路として利用されているということでした。歴史的なお話をすると、聖徳太子がお建てになられた創建当時の法隆寺は、現在の法隆寺を区別して「若草伽藍跡」という言っていますが、実はこの道は「若草伽藍跡」の東端のラインなのです。私は、昨年と一昨年に「若草伽藍跡」の「中門」と「南門」の推定地を発掘調査していました。結局、門の遺構はよくわからなかったのですが、「若草伽藍跡」の中軸がわかっています。さまざまな論争がありますが、この道は、「高麗尺（こまじゃく）」という少し大きなスケールの尺で、ちょうど300尺という長さに位置します。石田茂作先生も、この道が「若草伽藍跡」の東端のラインではないかと言われていました。それはなぜかということ、現在の法隆寺は「磁北」方向を基準に伽藍が造られています。が、「若草伽藍跡」では少し西向きに伽藍が造られています。ですから、現在の法隆寺の創</p>
--	----	---

		<p>建後にこの道ができていたとしたら、現在の法隆寺の伽藍の方向に合わせて道が造られるはずですが、この道はそうではありません。そう言ったことから、現在の法隆寺が整備される7世紀後半以前の「若草伽藍」のころの道ではないかと考えられるのです。そして地図上での検証に加え、写真に写っている塀を県立橿原考古学研究所が調査すると、「若草伽藍」の大きな鴟尾瓦の破片が出土していますので、「若草伽藍跡」の東端であることは間違いないだろうと思います。</p> <p>また、中軸から西側に300尺のところ、現在の南大門の少し東側の広場になっているところを、私が平成16年に発掘調査をしました。ここから焼けた壁画が見つかり話題になりましたが、そこから「若草伽藍跡」と同じ方向の溝が見つかったりしていますので、おそらく、「若草伽藍」の当初の計画としては、東西600尺のスケールで計画して、伽藍が造られ始めたのではないかと考えています。「若草伽藍」は、607年に建立したという話がありますが、このときはまだお寺造りが進められていたのですが、643年の山背大兄王の時代に上宮王家が滅亡し、お寺造りが停滞してしまったので、伽藍が未完成となってしまいが、伽藍の範囲は決められていたのではないかと、発掘調査の担当者として思っています。</p>
平田		<p>8枚目の写真です。</p> <p>これは春の風景ですよ。</p>
横田住職		<p>有名な竜田川です。ここは紅葉が有名ですが、桜の季節もすごくにぎやかで、きれいな季節です。映像では雪の場面が続いて、春に移っていくわけですが、夏から冬にかけて、だんだん心が清められていくというか、心が静まってから、春の光景が出るように作りました。2011年の春だったので、震災で日本人の心が沈んでいたところに春が巡ってくるということを表現しました。やはり春になると、震災というショッキングなできごとがあっても、人のにぎわいというものが出てくるのだなと思いながら、この場面を撮りました。奥の方には「三室山」という山がありますが、こちら桜が満開になりました。</p>

	平田	<p>きれいな場所ですので、みなさんにぜひ来ていただきたと思います。</p> <p>みなさん、竜田川というと、在原業平の和歌に出てくるのでご存知だと思いますが、どうしても紅葉のイメージが強いです。今、ご住職様がおっしゃられた「三室山」ですが、「神南（じんなん）」というエリアにあります。仏像が好きな方は、このエリアにあります「融念寺（ゆうねんじ）」というお寺に、国の重要文化財に指定されている仏像があります。行かれたことある方もいらっしゃるかもしれません。その仏像は、確か雑誌の表紙を飾ったこともあったと思います。そうしたエリアにある「三室山」は、実は「神奈備（かんなび）」です。つまり「神様の山」です。形も三輪山とよく似た形をしています。「神南」というエリアにあるというお話をしましたが、「神南」という地名は、訓読みをすると「神南（かみみなみ）」ですが、おそらく「神奈備」が変化して、文字にしたときに「神南」となり、現在は音読みで「神南（じんなん）」と言われたのだと思います。延喜式の式内社（しきだいしゃ）にもなっている「神岳神社（かみおかじんじゃ／しんがくじんじゃ）」がありますが、もともとは山が神様そのものですから社はなかったわけです。現在は社がありますが、山自体が信仰の対象であったわけです。そうしたものが竜田川の横にあるということで、ご住職様が撮られたこの写真の辺りは、「御幣岩」と言って、修験道の方はここで禊（みそぎ）をして、さまざまなお参りをされます。伊勢へお参りするときも、ここに立ち寄っています。また、近くには「白山神社（はくさんじんじゃ）」という神社もあり、白山信仰の方もお参りされています。ですから、竜田川は禊の場所として民俗学的にも有名なところですよ。</p> <p>先ほど、ご住職様のお話にありましたように、桜の時期は、「三室山」全体に桜が咲いてきれいですので、そういった風景も見に来ていただければと思います。</p>
	平田	<p>9枚目の写真です。</p> <p>法輪寺を写されていますね。</p>

横田住職		<p>夏の場面でお話しさせていただいた法輪寺の、正面を撮ったものです。編集して写っていませんが、門の前に桜の老木が1本あります。この老木が、毎年咲かせる桜の花の光景が本当にきれいです。斑鳩町には、桜が一気に満開に咲く場所が少なく、このように1本の老木が花を咲かせている光景が、斑鳩らしいなと思います。私の中での斑鳩のイメージは、金色の光や、朱色の赤色、また渋い土塀の色、屋根瓦の深い色など、心鎮めるようなイメージがあります。東大寺やその周辺とは、また違った雰囲気があります。1本の老木がポツと桜を咲かせている光景が、斑鳩らしいなと思って、みなさんに見ていただきたいと思います。</p>
平田		<p>法輪寺の境内にも古い桜の木がありますが、私の思い出としては、第1回目のセミナーのときにもお話ししたように、境内を発掘調査していたら、早いときだと3月末くらいに桜が咲いて、風が吹いて花びらが散ることがあります。発掘調査では、調査の状況を写真に撮って記録するという作業があります。そこできれいに現場を整えて、いざ写真を撮ろうとしたときに、風が吹いて桜の花が散ってきて、写真が撮れずにやり直しという時がありました。桜が散るのもきれいなのですが、その反面、調査が進まないのがもどかしくもありました。桜をバックに発掘調査の記録写真を撮りましたが、桜がすごく映えた写真になりました。先ほどの「三室山」の辺りは、桜の木がかたまって生えています、法輪寺は数本の桜です。境内を中心にあってきれいなので、春に斑鳩にいらっしゃるときは、1つの候補地として法輪寺周辺を訪れてみてはいかがでしょうか。</p>
平田		<p>10枚目の写真です。 これは法起寺ですね。</p>
横田住職		<p>映像を編集するにあたって、夏から始めて、先ほどの春の場面で締めようと思っていたのですが、「もう一度夏に戻りたいな」という気</p>

	平田	<p>持ちがして、春の後に夏に戻るように編集をいたしまして、ここが最後の場面になります。</p> <p>考えると、3つの塔が建立されてから、何度も何度も季節が巡っているわけです。この斑鳩の里も繰り返し季節が移っていく中で、私たち人の営みも、先祖のような古から続く人たちも、この3つの塔の間で暮らしていたのだなということを表そうと思い、最後にもう一度、夏に戻りました。細く伸びている道が、私はすごく好きで、空の雲と対比させるようにして撮影した場面です。</p> <p>私も、この時期は稲の葉が青々としていて好きです。風が流れると、稲が「サーッ」と揺れて、気持ちがいいです。ご住職様が制作された映画の「あかりの里」では、このような風景が取り上げられていたと思います。稲のにおいが嫌いな方もいらっしゃると思いますが、この時期は私は好きです。実は、私は、稲の花粉症なのですが…。</p> <p>余談になりますが、ご住職様が最近撮られた、遺影をテーマにしたドキュメンタリー映画、「遺影、夏空に遠く」に平田さんという方が登場するのですが、私が法起寺の周辺を発掘調査していた時に、その平田さんと親しくなりました。町内で名前を聞かれて「平田です」と言うと、「岡本の人ですか」と聞かれ、「私は岡本の者じゃないです」というような会話をした覚えがよくあります。しかし、私がお話をしていた方が亡くなられて、その息子さんも亡くなられました。今はお母様だけがいらっしゃって、このことを映画で初めて知り、驚きました。</p> <p>写真の右側に写っているのが「岡本」の集落です。この集落に「古池（ふるいけ）」という池があり、その「古池」からの法起寺の風景を、入江泰吉先生が撮影されたりしています。大きな声で言うと、周辺の方に怒られるかもしれませんが、「古池」の北西側に進むと、入江泰吉さんの写真と同じアングルの風景を見ることができます。</p> <p>また「古池」は、『日本霊異記』という、薬師寺の僧である「景戒（けいかい）」という人が書いた仏教説話集ですが、ここに「岡本院」という記述が出てきます。法起寺は、別名「岡本寺／岡本禅院」とも</p>
--	----	--

		<p>言います。この『日本霊異記』に、「観音様が盗まれたが、『古池』に鳥がとまっているのを村人が発見し、そのとまっている鳥をよく見ると、盗まれた観音様であった」という説話が出てきます。泥棒に盗まれても仏様が戻ってきたということで、仏教は、さまざまな苦難があっても堪えないということです。この説話の元になったのが法起寺なのです。</p> <p>単に法起寺をお参りすると、706年に完成した日本最古で最大の「三重塔」や国の重要文化財である平安時代の仏像「十一面観音」を見るだけになってしまいますが、うんちく的なお話ですが、こうした仏教説話や、ご住職様にお話をいただいたように、「岡本」というエリアで綿々と紡がれた歴史があるので、こうしたことを知っていただいたうえで訪ねていただくと、また違った味わいがあるのではないかと思います。</p> <p>スライドは以上です。それでは映像を見ていただこうと思います。</p> <p style="text-align: center;">～映像（10分35秒）～</p> <p>平田 「斑鳩の四季」という映像を見ていただきました。ご住職様、少し映像についてお話しいただければと思います。</p> <p>横田住職 今見ていただいた映像は、先ほどお話しを聞いていただきながら見ていただいていた写真を繋げたものです。</p> <p>このセミナーは「聖徳太子のおもかげに会う斑鳩」ということで、聖徳太子様を語るうえで軸になる「以和為貴／和を以って貴しと為す」という言葉があります。先日、テレビでいじめに関するドキュメンタリー番組を見ていると、いじめで息子様を亡くしたお父さんが、仏壇の前で手を合わせておられるシーンが映っていました。その上にかけてある額を見ますと、「以和為貴」と書いてありました。いじめで息子様を亡くしたということを考えると、人間は仲良くできていないとか、人間同士がいがみ合うような心ができていて、それが出てきてしまって、いじめにつながったのではないかと思います。い</p>
--	--	--

	<p>平田</p>	<p>じめで亡くなられた息子様の前で手を合わし、本当に苦しい中で、何とか「以和為貴」の世界を実現してほしいという、祈りのような額に感じました。</p> <p>世の中全体も、ぎすぎすしたり、穏やかな心になれない時代が続いております。斑鳩の里の風景は、どちらかという心を鎮める、心を穏やかにする風景が続いております。観光地の中でも、静かな風景、心が静まる風景が多いと思いますので、みなさまにまた訪れていただき、3つの塔などを散策していただきますと、心が何となく静かに、穏やかになり、「以和為貴」の世界を味わっていただいて、もとの暮らしに戻っていただけたと思いますので、どうかお越しいただけることを願っております。</p> <p>ご住職様おっしゃられたように、斑鳩に対して、さまざまな捉え方があると思いますが、今回参加していただいて、また違った視点、見方に気づかれた方もいらっしゃるかもしれません。平成30年11月23日には、斑鳩町商工会青年部主催で、「いかるがマルシェ」が史跡中宮寺跡で開催されます。斑鳩町内や奈良県内の有名なさまざまなお店が並ぶほかに、気球が上がります。気球は、私も乗りたいなと思っています。なぜかと言うと、ご住職様がおっしゃられていた斑鳩三塔（法隆寺・法起寺・法輪寺）が、この史跡中宮寺跡から見えるからです。史跡中宮寺跡の陸上からは、1か所見えるところがありまして、そこに「東屋」という休憩所を設置しており、斑鳩三塔が見える方向の印をしております。ご来場いただいたときは、ぜひこの場所をお立ち寄りいただけたらと思います。気球からの景色は見たことがないので私も楽しみにしております。しかし、数日後の開催なので、みなさんにもご予約もあり、ご来場いただくのは無理かもしれませんが、今までとは違った視点で、斑鳩を見ていただける機会がこれから出てくると思いますので、ホームページなどをこまめにチェックしていただければと思います。第2回目のセミナーのときにもご紹介させていただいた、藤ノ木古墳の展示も、平成30年12月2日まで開催しておりますので、ぜひお越しください。今回ありがたいことに、藤ノ木古</p>
--	-----------	---

		<p>墳の展示については、NHKに取材に来ていただいて、関東はさすがに流れませんでした。関西一円で放送され、「テレビ見たよ」というお声もいただいています。また、法隆寺夢殿の救世観音像の特別公開も平成30年11月22日まで開催されておりますので、あと数日しかございませんが、ご予約の合う方はお越してください。</p> <p>それでは、ご質問のある方いらっしゃいましたら、受けさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">～質疑・応答～</p> <p>平田 ご住職様には、今回ドキュメンタリーのような感じでセミナーをお願いしました。ご住職様が撮られている映画や物語にご興味ある方は、ご住職様に連絡を取っていただければと思います。</p> <p>ご住職様、最後にひと言お願いします。</p> <p>横田住職 新幹線に乗ってやってまいりまして、日比谷公園に入ると、緊張してまいりまして、私が住んでいる斑鳩について知りたいという方がいらっしゃるのかなど不安だったのですが、会場でみなさんの顔を見てみると、ありがたいというか、うれしい気持ちになりました。改めて、私が住んでいるところは、悪いところじゃなのだなと再認識し、私にとって一番良いお土産となりました。</p> <p>今日は、どうもありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">～拍手～</p> <p>15:00 藤江 横田住職・平田技師、ありがとうございました。</p> <p>みなさん、斑鳩の里の魅力を感じていただけましたでしょうか。</p> <p>これをもちまして、「法隆寺地域の仏教建造物」世界文化遺産登録25周年記念セミナー「聖徳太子のおもかげに会う斑鳩」の第3回目を終了いたします。</p> <p>出口でアンケートを回収させていただきますので、ご協力いただき</p>
--	--	---

15 : 00		<p>ますようお願いいたします。</p> <p>また、会場後方では、斑鳩町の観光パンフレットを設置させていただいております。どうぞお持ち帰りくださいませ。</p> <p>本日は、ご来場いただき、誠にありがとうございました。</p> <p style="text-align: center;">～閉会～</p>
---------	--	---